

令和2年度 兵庫県立三木東高等学校 各年次・各部の課題と取り組み

- 令和2年度努力目標
- ① キャリア教育の充実
 - ② 学力の向上
 - ③ 教員の授業力の向上
 - ④ 生徒による活動および生徒指導の充実

- 令和2年度の学校評価の流れ
- (6月) 担当部署で本年度の課題と課題に対する取り組み、評価指標と活用するアンケートを決定する。
 - (8月) 担当部署で中間評価を実施
 - 前期の取り組み成果と後期に向けて見直すべき点があれば見直す
 - (12月) 学校自己評価アンケートの実施
 - (1月) 生徒・保護者・職員アンケートの実施
 - (2月) 学校自己評価
 - (3月) 学校関係者評価

| 令和2年度 努力目標No.・課題(目標)・課題に対する取り組み・評価指標と活用する外部アンケート(各年次・専門部) | | 課題(目標) | 課題に対する取り組み | 評価指標と活用する外部アンケート | 前期の成果と後期へ向けて | 項目平均 | 各年次・専門部平均 | 今年度の成果と次年度へ向けて | 学校評議員の提言 |
|---|---|--|---|---|--|------|-----------|--|--|
| 1年次 | ① | 「産業社会と人間」等の授業を中心に様々な機会を通して将来に対する興味関心を喚起する。 | 「産業社会と人間」等の授業を中心に行事や集会、面談等を通じ、平素の授業の重要性を意識させていく。 | 「産業社会と人間」の学年末評価材料、生徒の取り組み内容で評価が7割以上良好と判断できる。 | 現時点では確定評価ではないが達成と考えられる。今後の活動も適切に進めていきたい。 | 4.1 | 4.0 | 現時点では年度末の確定評価ではないが達成と考えられる。今後の活動も適切に進めていきたい。 | ・詳細はわかりませんが、良かったです。 ・評価基準をより適切でわかりやすく設定するとより改善につながると思います。 |
| 1年次 | ② | 「基礎学力定着」を最優先に授業を大切にすることを意識し、家庭学習の習慣化に努めさせ、確かな学力につなげていく。 | 「生活と学習の記録」を利用し、家庭学習の習慣化を可視化し、声掛けを行うなど習慣化に努める。 | 「生活と学習の記録」を利用し、家庭学習時間を最低1日1時間を達成する。 | クラス・生徒により温度差があり、完全達成とはいえない。調査や模試、進路行事等を通じ意識を引き続き高める。 | 4.0 | 4.0 | 中間評価をもとに改善を行い、先週の話を聞く会や模試、進路行事を取り入れ意識を高めているほか、提出率の向上を指導した結果ほぼ完全達成と考える。 | ・実質を担保していくのはなかなか難しいと思います。 |
| 1年次 | ③ | 「基礎学力定着」を最優先に授業を大切にすることを意識し、家庭学習の習慣化に努めさせ、確かな学力につなげていく。 | 「生活と学習の記録」を利用し、家庭学習の習慣化を可視化し、週末課題を通じて提出物の期限厳守と習慣化を図る。 | 「生活と学習の記録」を利用し、家庭学習時間を最低1日1時間を達成する。 | クラス・生徒により温度差があり、完全達成とはいえない。週末課題については中間調査以降、より強化する方向。調査や模試、進路行事等を通じ意識を引き続き高める。 | 3.9 | 4.0 | 中間評価をもとに改善を行い、先週の話を聞く会や模試、進路行事を取り入れ意識を高めているほか、提出率の向上を指導した結果ほぼ完全達成と考える。 | ・上に同じ、改善策が生かされ、生徒の意識が上がりよい成果が出ている。提出率の整備で示すとわかりやすくと考えます。「..したい。」で結ぶのではなく「..する。」と強い意志で取り組まれるよう期待します。 |
| 1年次 | ④ | 長引いた休校の影響を少しでもなくし、効率のよい授業の工夫を行う。 | 定着を図るための宿題や視覚的な工夫など、授業内容を精選工夫し、少しでも学習内容の遅れを減らす。 | 模試等の結果、前回との比較で伸びている割合が過半数を超えること。 | コロナ禍の影響で、模試計画が変更、実施方法も持ち帰り実施となる。次回模試は10月末実施で、評価は保留としたい。データについては後期に向け精査したい。 | 3.8 | 4.0 | コロナ禍の影響で、模試計画が変更、実施方法も持ち帰り実施となる。比較可能な模試は10月末と1月中旬実施で、データ比較が現時点でできないため評価しにくい部分があるが、データについては2年次に向け精査・活用したい。 | ・まだデータが揃ったところでお伺いしたいです。 |
| 1年次 | ⑤ | 1年次の様子や連絡事項を保護者・生徒にも広く広報する。 | 年次通信の毎月発行、スタディサプリや365メールの登録をお願いする。 | スタディサプリ、365メールの生徒全員登録を目指す。 | トラブルで接続できない生徒1名以外、スタディサプリは利用可能。メールもほぼ達成。 | 4.2 | 4.0 | 目標はほぼ達成である。次年度はスタディサプリをより深く活用した課題設定、配信等を実施予定。 | ・すばらしいです。 ・コロナ禍においてメールでのやりとりが重要と考えます。大変良い取り組みだと思います。 |
| 2年次 | ① | 「総合学習」等の授業を中心に、将来の職業選択を考え、進路研究に役立てる。 | 「総合学習」等の授業を中心にインターンシップ・オープンキャンパスに参加し将来の職業観を考える。 | 「総合学習」の取り組みで、発表・レポートを通して、「課題研究」論文に繋げる。 | インターンシップも予定通り実施することができ、職業観を考えるために効果があった。 | 4.0 | 4.0 | キャリア教育を考える上でインターンシップ活動は進学の生徒にも行く必要があると考えられる。 | ・良かったです。引き続き充実させていく必要がありと考える。三木東高校の強みであるキャリア教育のより高みを目指してほしい。 |
| 2年次 | ② | 「学力向上」を最優先に、授業を大切にすることを意識し、家庭学習を習慣化する。 | スタディサプリによる家庭学習時間調査を実施、メッセージ機能による個別の対応をおこなう。 | 学習時間の結果を見て、生徒自身が家庭学習時間の目標を立て学力向上に繋げる。 | 全員登録によりメッセージ配信、リモート実施に大変効果があった。 | 3.6 | 4.0 | 緊急時のメッセージではなく普段からの活用が必要だと思えます。 | ・継続的な活用がのぞまれるのだと思います。 ・活用方法の工夫に期待します。 |
| 2年次 | ③ | 「学力向上」を最優先に、授業研究を行い、突然の休業等にも対応できる遠隔授業の研究も行う。 | YouTubeに授業をUPし配信、zoomによる双方向の授業も実施。クラス担任によるHRの実施。 | 長期休業中や日々の復習・予習に活用できないかを考え活用する。 | 配信はできたが、一方的な情報の配信になった。双方向の授業を考えなければならぬ。 | 3.6 | 3.8 | 緊急時の配信ではなく授業の復習等と考え年間を通して配信し続けたい。 | ・ルーティンでできればなお良いのだと思います。 ・例えば不登校気味の生徒がリモートであれば授業に参加しやすい、といったことも聞きます。そのような生徒がどの程度いるかわかりませんが、リモートにはリモートの良さがあると思いますので、この機会に積極的な活用を模索されてはどうかと思えます。 |
| 2年次 | ④ | 長期の休業に伴う生徒生活状態や課題の取り組み状況の把握を行う。 | 登校日を活用、年次団で全生徒の個別面談を行う。 | 個別面談で生徒の個々の状況を把握し、丁寧に対応した。 | 全員面談実施の取り組みにより生徒の情報を丁寧に把握できた。 | 4.0 | 4.0 | 登校ができるようになってからも全員面談を実施し生徒の情報をしっかり把握できた。 | ・すばらしいです。 ・全員面談を実施し、丁寧に生徒の実態把握がなされている。 |
| 2年次 | ⑤ | 学校行事・2年次の取り組みを年次通信で広報発信する。 | 年次通信を毎月発行、スタディサプリのメッセージ機能365メールを活用して情報を発信。 | 緊急対応だけでなく、スタディサプリのメッセージ機能365メールを活用し保護者との情報共有を行う。 | 毎月発行47回生の情報発信源となるように内容を精査している。 | 3.8 | 4.0 | 年次通信の発行はできたが、生徒から保護者へわたっていないようだ。東高校のホームページより見てもうのように工夫したい。 | ・まだ工夫の余地はあるので、まずは十分な成果だと思えます。 ・三木東高校のHPアクセス数の変動を的確にとらえて改善に役立ててほしい。 |
| 3年次 | ② | 生徒一人ひとりに明確な進路目標を持たせ、学力向上と進路の実現に向かう環境を整備する。 | ・進路別ホームルームを実施し、進路実現に向けた準備を行う。 ・放課後補習や夏季補習を開講し、進学における入学試験対策だけでなく、就職試験対策も実施し、幅広い進路に対応する。 | 10月実施の高校生活実態調査において、「希望する進路を実現するために積極的に準備できていますか。」の質問に対して、「①積極的に準備できている」「②ある程度は準備できている」の回答結果が80%以上である。 | ・5月までの臨時休業の影響により、進路別からクラス単位による進路ホームルームに変更し、実施した。 ・6/23より1学期放課後補習(週1回:選択制12科目)を実施、夏季補習(期間毎日:選択制14科目)については、前期7日、後期6日の13日間の補習を実施できた。 ・8/31より2学期放課後補習(週1回:選択制14科目)を実施し、11月まで継続して実施していく予定である。 | 4.2 | 4.1 | ・評価指標である10月実施の高校生活実態調査の結果として、「希望する進路を実現するために積極的に準備できていますか。」の質問に対して、「①」の回答結果が93.7%、②の回答結果が95.3%であった。 ・幅広い進路に対応するとともに、学力向上と進路の実現に向かう環境を整備することができた。 | ・目標達成であるので良いと思います。 ・進路実現に向けての個々の支援は大きいです。今後とも引き続き取り組みを進められることを期待しています。 |
| 3年次 | ④ | 部活動や学校行事に積極的に関わらせ、最高年次としての自覚を促す。 | ・引退まで継続して部活動に参加するように推奨する。 ・最高年次として、それぞれの学校行事を思い出深いものとなるように積極的に参加を推奨する。 | 10月実施の高校生活実態調査において、「(1)文化の部や体育の部などの学校行事に際し、準備段階を含めて積極的に活動できましたか。」の質問に対して、「①積極的に活動できた」「②ある程度活動できた」の回答結果が80%以上である。「(2)4月以降を振り返って、あなたの学校生活は充実していますか。」の質問に対して、「①大変充実していた」「②まあまあ充実していた」の2項目の回答結果がどちらも80%以上である。 | ・5月までの臨時休業の影響により、高校総体や高校総合文化祭等が中止となり、部活動の実施が難しい状況であった。各部活動の特性に応じて代替大会が実施され、積極的な参加を呼びかけた。 ・10/1に年次別スポーツ大会を実施する予定である。 | 4.1 | 4.1 | ・肯定的な回答が多いことにより、先方の進路が実現していると感じています。先方の取り組みに敬意を表します。 ・②の回答結果が83.2%、であった。 ・コロナ禍による多大な影響があったが、部活動や学校行事に積極的に関わらせ、最高年次としての自覚を促すことができた。 | ・肯定的な回答が多いことにより、先方の進路が実現していると感じています。先方の取り組みに敬意を表します。 ・②の回答結果が83.2%、であった。 ・コロナ禍による多大な影響があったが、部活動や学校行事に積極的に関わらせ、最高年次としての自覚を促すことができた。 |
| 3年次 | ① | 人権意識を高め、「こころ豊かな人間性」の形成を目指す。他人の意見に耳を傾けながら、自分を表現できるパラソル感覚を身につけさせる。 | ・1学期および2学期にそれぞれ各1回の人権ホームルームを実施する。 ・日々のホームルーム活動を通じて、クラスの一人としての役割を担う機会を設ける。 | ・7月および12月実施のいじめに関する生徒アンケートにおいて、「学校に来ることは楽しいですか。」の質問に対して、「①楽しい」「②まあまあ楽しい」の回答結果が80%以上である。 ・10月実施の高校生活実態調査において、「日番や掃除当番、委員の活動など、クラスの一人としての役割がよく果たせていますか。」の質問に対して、「①いつもよくできている」「②だいたいできている」の回答結果が80%以上である。 | ・5月までの臨時休業の影響や警報による臨時休業により、1学期実施分の人権ホームルームを8月に実施、2学期分は10月に実施する予定である。 ・学級役員や係決を6月・9月に実施した。クラスの一人として、役割を果たせる環境づくりを継続していく。 | 4.0 | 4.0 | ・評価指標である7月および12月実施のいじめに関する生徒アンケートの結果として、「①」の回答結果が7月には82.0%、12月は86.3%であった。 ・評価指標である10月実施の高校生活実態調査の結果として、「①」「②」の回答結果が98.9%であった。 ・人権意識を高め、「こころ豊かな人間性」の形成を目指すことができた。 | ・最高年次としての自覚と行動が結びつきよい成果が出ている。 |
| 総務部 | ② | 読書活動や学校図書館の活用、ビブリオバトルを通して語彙力を養い、豊かな感性と思考力を育成する。 | 購入希望調査や職員による推薦に基づき定期的に本を購入し、『Library』を発行し、図書委員の作成した読書啓発ポスターを活用し、読書活動の啓発を行う。図書委員会においてビブリオバトルに向けた活動を行い、自分の考えや想いを表現する機会を設ける。 | ・『Library』を毎月発行している。 ・『図書館報』を年1回発行している。 ・図書委員による読書啓発ポスターを校内に掲示している。 ・校内ビブリオバトルを年1回開催する。 | コロナウイルス対策中に入り口の消毒液近くには図書館利用上の注意を掲示し、生徒が家庭学習期間中は朝礼で職員に図書館利用を呼びかけたりした。『Library』も毎月発行し、読書啓発に努めた。学校再開時には図書委員会を開き、図書館利用を呼びかけるポスター作成・掲示をして利用者の増加を目指した。クラスでは生徒から、職員室では職員からのリクエスト図書も募った。図書館利用の増加を目指して、生徒がく通る場所に新着図書表紙をカラーコピーしたものも掲示した。 | 4.1 | 4.1 | コロナウイルス対策に留意しながら日頃、豊富な生活を支える読書活動が推進されている。今後、具体的な数値目標を設定して、より高みをめざし取り組みを期待したい。 | ・良い成果だと思えます。 ・学力向上につながるだけでなく、豊かな生活を支える読書活動が推進されている。今後、具体的な数値目標を設定して、より高みをめざし取り組みを期待したい。 |
| 総務部 | ④ | 清掃活動や整備委員会による通学路清掃を通して、校内美化・地域美化に努めること大切さと、環境問題への意識を高める。 | 毎日の校内清掃活動を行い、整備委員会を活用して通学路清掃を実施し、校内美化を啓発するポスターを作成し、生徒の美化意識を啓発する。 | ・校内の清掃活動を行い、校内美化に努めている。 ・整備委員会による通学路清掃を学期に2回実施している。 ・整備委員会による校内美化啓発ポスターを教室やゴミ箱付近に掲示している。 | 通学路清掃を3回実施した。また、整備委員会として校内美化啓発ポスターを作成し、校内に掲示するなど、校内美化に努めた。後期はゴミの分別の徹底を呼びかけ、生徒の美化意識の向上に努める。 | 4.0 | 4.0 | 年間を通して通学路清掃を5回実施した。また、ゴミの分別の徹底を呼びかけるポスターを作成し、各教室のゴミ箱清掃も実施することができた。校内美化に努めることができた。来年度以降も継続して取組を実施していきたい。 | ・着実に実施されている点が素晴らしいです。 ・年間回の通学路清掃は地域とのつながりも大切にしたい。三木東高校の強みの1つであると考えます。 |

| 年次・専門部 | 令和2年度学力目標No | 課題(目標) | 課題に対する取り組み | 評価指標と活用する外部アンケート | 前期の成果と後期へ向けて | 項目平均 | 各年次・専門部平均 | 今年度の成果と次年度へ向けて | 学校評議員の提言 |
|---------|-------------|--|---|---|---|------|-----------|--|---|
| 教務部 | ① | 各部と連携しながらキャリアカウンセリングを行い、生徒の進路実現可能な科目選択につなげることで生徒のキャリア意識を向上させる。 | ガイダンスやキャリアカウンセラー面談を丁寧に行い、生徒の興味関心や進路希望に合致した科目選択につなげる。 | ・生活実態調査における「現在『自分独自の時間割』で積極的に学ぶことができているか。」の質問に対して肯定的な回答が80%以上 ・学校評価アンケートにおける「科目選択ガイダンスは適切である」の質問に対して肯定的な回答が80%以上 どちらも満たす。 | 1年次のキャリアカウンセリングについては、昨年より日程を早め、科目選択ガイダンスを1学期に実施した。その直後にキャリアカウンセラーの面談を行ったため、以前より踏み込んだ進路相談ができた。さらに、その進路選択を科目選択に生かすことができている生徒が増えていると感じられる。選択科目の本登録はこれからの本登録後の選択状況を注視したい。 | 3.9 | | 生活実態調査における「現在『自分独自の時間割』で積極的に学ぶことができているか。」の質問に対して肯定的な回答が80%以上、満足度が高い。一方で最も肯定的な回答が2年次で低くなっている為、改善の余地があると考えられる。現在1年次のみで行っているキャリアカウンセラーの運用が2年次でもできないか検討する。 | ・十分な成果だと思えます。 ・課題が的確に把握されており、改善策も検討されている。今後に期待したい。 |
| 教務部 | ② | 生徒の実態を踏まえ、生徒の学力や学習意欲の向上に結びつくよう指導と評価の一体化を図ることで学習習慣を確立させる。 | すべての教科・科目において観点別に評価を行い、目録から宿題・提出物やテストなど多面的でこまめな評価をおこなうことで、生徒の意欲を継続させ、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 | 生活実態調査における「家庭での平日の1日の学習時間」の質問に対して1時間より多い回答が80%以上 ・「家庭での休日の学習時間」の質問に対して2時間より多い回答が80%以上 ・「定期考査に際し、事前にしっかりと勉強しているか」の質問に対して肯定的な回答が80%以上 ・「提出物は期限を守ってきちんと提出できているか」の質問に対して肯定的な回答が80%以上をすべて満たす。 | 生徒の家庭学習の時間は年々上昇している。しかし、それが一部の生徒にとどまり全体的な取り組みとして成果が出ていないのが現状である。教科への指導と評価を連携し、生徒自身が学習に取り組まなくてはならないという雰囲気を作ることが重要と考える。 | 3.8 | 3.8 | 全体的に目標からは遠い結果であった。まずは家庭での学習習慣を身につけるためとえ30分であっても毎日家庭学習をする習慣をつける必要がある。中間評価でも記述したように家庭学習の時間は年々上昇しているのは事実であり、それを良い取り組みとして生徒全体に広げていく必要がある。教科に宿題や週末課題の取り組みを粘り強く呼びかけていくことをお願いしたい。また、家庭環境として家庭での学習が困難な生徒もいることから、朝や放課後の時間における教室利用も検討していく。 | ・外的にコントロールしづらい案件ですのではなかなか難しいと思えます。 ・目標には達していないが、その原因分析と対策について具体的な検討されており、今後に楽しみである。ぜひ、改善策に取り組みしたい。 |
| 教務部 | ③ | 主体的・対話的で深い学びを実現させるため、学習活動に様々な工夫を凝らし、教育効果を最大限引き出すための適切な授業形態を計画する。また、その授業を研究授業などを通して研究、実践、共有し意見交換ができる体制を確立させる。さらに、生徒の実態を把握し、自らの指導力や授業力を客観的に評価することで、授業改善や学校全体の授業力向上につなげる。 | 基本的な授業技術に加え、ICTの効果的な活用を推進する。また、発表・討論の言語活動や探究活動、観察・実験、調査等の体験的な活動など工夫された学習活動を、一斉学習や個別学習、ペア学習、グループ学習等の場面に適した学習形態で実施する。 | ・ICT機器の活用研修を年1回以上実施。 学校評価アンケートにおける「視聴覚機器やコンピュータなどを有効に活用した教育活動が行われている。」の質問に対して肯定的な回答が80%以上 ・「発表・討論の言語活動や探究活動、観察・実験、調査等の体験的な活動など工夫された学習活動が行われている」の質問に対して肯定的な回答が80%以上をすべて満たす。 | 今年度はICT機器の研修を動画配信という形で実施した。しかし、再生回数が増えず、この形態の研修にも課題が残る。今年度、全HJ教室にプロジェクターが設置され、タブレット端末も123台配備された。今後どのようにこれらを活用していくかが課題となっている。 | 4.2 | | ICT機器の活用がしやすい環境になり、昨年より肯定的な意見が増えた。さらに研修を通してすべての先生方が効果的にICT機器を導入できるようにしていきたい。また、主体的で対話的で深い学びにつながる授業はほとんどの授業で実施されている。生徒への認知度も高い。引き続き研究授業などを通して、授業内容を工夫し指導力の向上につなげたい。 | ・導入から定着へ、そして水準向上が次の課題かと思えます。 ・学校現場でのICT活用は機器を導入できるようにしていきたい。引き続き取り組みを期待しています。 ・タブレットはぜひ引き取り、生徒への認知度も高い。引き続き研究授業などを通して、授業内容を工夫し指導力の向上につなげたい。 |
| 進路指導部 | ① | 生徒個々の進路実現のためより充実した進路指導体制の構築。 | 生徒を取り巻く状況や進路希望を把握するため、年次・総合学科推進部との連携を密にし生徒個々についての情報を共有する。 | 進路指導部主催のプログラムについて内容・実施時期を吟味し「産社・課研」との関連を図る。拡大進路指導部会を充実させる。 | プログラムの精選と内容の検討を実施中。 | 4.0 | | 本年プログラムの変更については1学期のコロナ対応の休校と重なっての中止もあり評価が難しいが、年次からの要望も加味し有効なガイダンスや講話の実施を目指したい。 | ・この面でのイレギュラー要素(コロナ)はやむを得ないと思えます。 |
| 進路指導部 | ① | 生徒個々の進路実現のための資質向上を図る。 | 生徒個々の資質の向上のため細やかな指導を行う。個人面談やガイダンスを通じて意識の向上と正確な適正判断を促す。 | 個々のカリキュラム選択に際して個人面談を行う。基礎学力の向上を図るとともに様々な進路実現のための積極的な検定取得を促す。 | 個々の進路目標に合わせた面談等を実施、進路実現に対するサポートを行う。 | 3.6 | 3.7 | 大学入学共通テストの実施や就職試験の時期の変更など例年と異なる点が多い中で個人個人への指導には努力ができたと考えている。 | ・大学側でも高校側の進路指導状況がつかめなくて苦労しています。 |
| 進路指導部 | ② | アドバンスクラスにおいて進学を前提とし自らの進路実現のために努力できる生徒を育てる。1～3月の一般入試まで粘り強く挑戦できる生徒を育てる。 | アドバンスクラスに対するガイダンスや進路講話等のプログラムの充実。各種検定への積極的な案内。 | 適切な時期に講話を入れる。あるいは卒業生の体験談などを通じて継続的な学習の持続を促す。 | 2年次アドバンスクラスへのサポート、1年次編成準備ともに進出している。 | 3.6 | | 国立大学への合格を複数名出した。3年次アドバンスクラスは一定の成果を挙げたと考えている。来年度にむけて受験対策などについて年次と連絡を密にしたいと考えている。 | ・3年間を貫く進路指導の成果が3年次に結果として現れている。コロナ禍の影響を補う取り組みを期待したい。 |
| 生徒指導部 | ④ | 日常生活のマナー向上と基本的な生活習慣を確立させる。 | 服装違反・遅刻等の指導を徹底する。服装・頭髪検査を定期的に行う。 | 服装・頭髪・遅刻等、繰り返し指導される生徒数0人を目指す。 | 繰り返し指導を受ける生徒は数人いるが、昨年より昨年と比べると少なくなったように感じる。 | 4.0 | | 全年次を通して指導基準を合わせ、指導にあたりたい。 | ・どうしても完全な結果は望めない領域かと思えます。達成数値は誤差範囲と考えます。 |
| 生徒指導部 | ④ | 学校内外において、自分の行動に責任をもち「三木東高生」としての自覚と誇りをもちたせる。 | 校内において、交通ルールやマナーを守り、他者の迷惑になるような行動は慎むよう注意喚起する。 | 登下校時における苦情電話0件を目指す。 | 電車内でマスクを外しての会話や志願駅でたむろしている等複数の苦情電話があった。今後も根気強く注意喚起していきたい。 | 3.8 | 4.0 | 苦情電話が0件には至らなかったが、定期的な下校指導を実施したい。 | ・過去に電車内でのマナーが課題と感じたことがあったが、近年は改善が見られます。指導の成果と考えると、苦情電話は三木東高校への地域の期待のパロメーターでもあると捉え、地道な対応をお願いしたい。 |
| 生徒指導部 | ④ | 部活動に積極的に参加させ、活気ある学校づくりを目指す。 | 体験入部を3日間実施し、入部を喚起する。部活動dayを月1回設け、教員が積極的に生徒に関わる。 | 入部率90%以上、及び年度途中退部者を10人未満にする。 | 1年生の入部率は90%を大きく上回ったが、全体では80%程度となっている。今後も入部率向上のため、様々な取り組みをしていきたい。途中退部者は10名であったが、兼部の生徒が一つの部に集中するため、他の部へ入部するなどの理由が多かった。 | 4.2 | | 入部率90%以上を達成したが、途中退部者を5名以内にしたい。 | ・入部率や途中退部者といった数値だけでは中身の(活動の充実度や満足度)は、はかれないと思えますので、部活動についてのアンケートの結果も評価指標に反映してほしいかがどうか。 ・入部率目標達成にむけ教員員の取り組みの成果が出ている。今後も三木東高校の活躍を楽しみにしています。 |
| 総合学科推進部 | ⑤ | 家庭・地域・中学校等関係機関への積極的な情報発信。 | ホームページ等で学校行事や生徒の活躍の様子、近況等を広く印象的に伝える。 | ホームページ毎週更新の実施。総合学科通信の年12回以上の発行。 | コロナ禍で登校が難しい中、各部各所と連携し情報発信につめた。後期も同様にとめていく。 | 4.1 | | コロナ禍で外部とのつながりが困難な中、本校の情報発信の中心となった。次年度以降も情報発信の中心となるべく邁進する。 | ・十分な成果だと思えます。 ・充実した情報発信がなされている。今後アクセス数の活用や情報の受け手の反応を分析したさらなる充実を期待したい。 |
| 総合学科推進部 | ⑤ | 教育内容に関する家庭や地域等の理解の促進。 | 開催するオープンハイスクールや学校説明会毎に参加者に合わせた多様な取組を行う。 | 参加者数250名以上。アンケート回収率70%以上。 | 未実施実施に向けて準備中 | 4.0 | 3.8 | コロナ禍の中、校内実施は11月の2日間だけであったが、例年以上の参加者に恵まれた。先の見えない次年度ではあるが、実施に向けて鋭意努力していく。 | ・未実施分の評価は保留したいと思います。 |
| 総合学科推進部 | ⑤ | 総合学科に携わる上で必要な教員の資質の向上。 | 総合学科における取組の成果と課題を全職員で共有し、専門性と使命感を高める。 | 年度末の職員研修の実施。 | 未実施実施に向けて準備中 | 3.3 | | 別会議などで随時情報共有を行った。今後とも資料等を通して情報共有を行う。 | |
| 総合学科推進部 | ① | 生徒の進路保障につながる実践内容の充実。 | 高校3年間を見通した効果的なキャリア教育のカリキュラムマネジメントを行う。 | アンケート回収率90%以上。参加者満足度80%以上。 | 未実施実施に向けて準備中 | 3.7 | | コロナ禍の影響もあり、カリキュラムも縮小・変更を余儀なくされたが概ね修了することができた。次年度も不透明ではあるが、進路実現にむけて鋭意努力していく。 | ・三木東高校の最大の強みであり、コロナ禍にもかかわらず概ね修了することができた。次年度も不透明ではあるが、進路実現にむけて鋭意努力していく。 |
| 保健部 | ④ | 心身の健康に関する総合的な知識を高め、自己管理ができるようになる。 | 保健委員による昼休み豆知識の放送やその他の活動で、全校生徒へ生徒主体の発信を充実させる。 | 保健委員の活動率を90%以上にする。 | 保健委員は積極的に活動できている。やる気が出ない生徒にも細かい指導で対応している。95%達成できている。 | 4.2 | | 前期と同様に積極的に活動できた。当番を忘れた生徒には指導を行い、活動する機会を後日設けたことにより、予定していた活動全てをぬかりなく行えた。 | ・今期の状況下ではよい成果だと思えます。 ・生徒一人一人の心身の健康について丁寧な指導やカウンセリングがなされており、その成果も出ています。 |
| 保健部 | ① | 心身の健康に関して自己対処能力を養い、高校生活としての資質を高める。 | 保健室経営やその他の対応において、生徒の対処能力を高める働きかけを行う。 | 個別対応において、解決できないケースを、20件以内にする。 | 自己対処能力を育てる対応を行っている。件数は達成している。 | 4.1 | 4.0 | 個別対応の件数が例年に比べて減少しているが、件数の目標は達成した。 | |
| 保健部 | ③ | 生徒対応に必要な、生徒理解・緊急時対応力教員の資質の向上。 | 個別の生徒対応・救急法・カウンセリング・特別支援に関する研修や事例の対応を充実させる。 | 職員研修内容の周知徹底を100%にする。 | コロナ対策の関連で例年より研修が減っている。厳選した研修を対象職員で周知徹底したいと考える。 | 3.8 | | 研修を含め2度の研修を行った。参加人数やワークシートの提出状況は良いが、欠席した職員への対応が行き届いておらず、周知の徹底には至らなかった。 | ・精選も必要領域かと思えます。 ・教職員一丸となった研修をめぐって、さらに取り組みを充実させたい。 |
| 事務室 | ① | 年次・専門部の目標達成への協力。 | 教材・備品等の購入・準備を迅速に行う。 | 購入希望のあった物品の調達率80%以上とする。 | 概ね物品の調達はできた。年度内に向け、物品精査をして評価指標を目指す。 | 4.2 | 4.2 | よりよい教育環境となるよう迅速に対応することができた。予算の重点をどこにおくのかを見極め、効率よく事務処理を行ってきたい。 | ・適切だと思えます。 ・予算の範囲内で学校教育目標の重点と整備の現状をふまえた的確な教材、備品の充実につなげてほしい。 |

県立三木東高の「学校評議員」の一員として評価を求められましたが、実際に教育に携わっている先生方また事務方の取り組みについて外部から見ている私のような教育について専門家ではない評議員が評価、提言をするのは大変難しいことですので評議員に行ったら、また外部で生徒と出会うとき、感じたことを少し書かせていただきます。すれ違う時に私が探しても返事なかった生徒を少し残念に感じました。軽く会釈するだけでもお互い気持ちのいいものですね。地域にある高校の生徒として「東高の生徒は礼儀正しい」と言われるようになってほしいです。また、私たちの若いころと違いパソコンやスマホ等で情報量も相当多くなっています。入ってくる情報、自ら発信する情報もあふれる中、メールやLINE等のやり取りで知らない間に相手を傷つけている事もありました。小学生の低学年から携帯電話を持つ時代です。体みにならばゲーム三昧、我々高齢者は「そんなことをしているのが悪くなるよ。外で遊びなさい。」と、ついつい言ってしまったりもします。しかし、ゲームが悪いかどうかはわかりません。これも含め良い情報、悪い情報の振り分けをどのように考えればいいのか大事なことだと思います。この様なことも取り上げていただきテーマを決め評議員会の中で生徒たちの生の声が聞けるようになれば今の若い人たちの考えが少しでも理解できるのではないかと個人的に思っています。*学校評議員の役割を充分理解せず勝手なことを言ってしまうと申し訳ありません。

「令和2年度 兵庫県立三木東高等学校 各年次・各部の課題と取り組み」について拝見いたしました。本来、各項目について提言、提案させていただければならないのですが、この度は全体を通して記載をさせていただきます。先生方が課題(目標)を設定され、目標に対して取り組まれている内容や姿勢は十分評価できると思っています。全ての生徒に定めた目標達成は難しいと思いますが、全生徒に対して目標が達成されるようご協力いただきたいと思います。また、全職員が自分の将来の目標をもち、かつ目標に達する環境づくりをこれからもお願いしたいと思います。

3年間をPTA役員として関わった、この1年間は、学校評議員としても関わってまいりましたが、学校や生徒たちの力になれたのかは分かりませんが、色々な事を経験させて頂き感謝しかありません。令和2年度の「学校評議員の提言」の件ですが個々に関与する事は大変難しく、私が関わっただけの感想を少し書かせて頂きます。私は、PTAでは学校側と生徒たちとの間で中立の立場でなければならないと思っています。そこで一度、生徒会・運動部・文化部の生徒たちから意見交換をしてPTA活動にも反映できればと思っています。特に不満はありませんが、学校側からお願いの場面で生徒たちの力になっているのか疑問に思う事がありました。先生方もストレスや生徒たちへの対応が難しい時代と思いますが、生徒たちは別の高校に移動する事はまず出来ません。今後とも生徒たちをよろしくお願ひいたします。三木東高校の活躍を陰ながら応援し続けて参ります。

アンケート形式による解答集計を数値目標に設定するのは、原則としてわかりやすいベンチマークなのですが、内実を伴っていないかを確認しなくてはならない場合がある。全体として、新型コロナウイルスへの対応を余儀なくされた今年度においては、通常の活動ができないことはしょうぶふんわり得ることで、不満の事態が発生したケースでの評価は、これも通常通りに行う必要もないとも言えます。リスクマネジメントの観点から言えば、モデルケースになりうる一年だったのかも知れません。大学も同様ですが、